

平成 29 年 10 月 6 日
海 事 局 外 航 課**日本にとって最重要な海上輸送路の安全確保に向けて国際共同調査がスタートします
～マラッカ・シンガポール海峡における共同測量調査事業の
実施に関する合意文書に署名をしました～**

○10月2日(月)にマレーシアのコタキナバルにおいて、マラッカ・シンガポール海峡における共同水路測量調査事業の実施に関する沿岸3カ国(インドネシア、マレーシア、シンガポール)と我が国の間で合意文書の署名式が行われました。これにより、日・ASEAN 統合基金(JAIF)を活用した4年間のプロジェクトが本格的にスタートします。

○本プロジェクトにより、我が国輸入原油の8割が通航する国際海峡において、日本の資金と技術の活用による航行安全の向上と海上貿易の安定が期待されます。

1. 開催日：平成 29 年 10 月 2 日(月)
2. 場 所：「ヒルトンホテル」 マレーシア コタキナバル市
3. 出席者：
 - ・日 本： 国土交通省海事局次長 大坪 新一郎
公益財団法人 マラッカ海峡協議会 理事長 宮崎 達彦
 - ・インドネシア： イ・ニョマン・スカヤニヤ運輸省海運総局航行援助施設局長
ハルジョ・ススモロ海軍水路部長
 - ・マレーシア： アブ・アジズ・カプラウィ運輸省副大臣
バーリン運輸省海事局長
 - ・シンガポール： アンドリュー・タン海事港湾庁長官 ほか
4. 共同水路測量調査事業及び署名式の概要(別紙参照)

共同水路測量調査事業の合意文書署名式

(前列左からインドネシア、マレーシア、シンガポール、日本の各国代表の署名者)



連絡先：国土交通省海事局外航課

03-5253-8111 (代表) 03-5253-8618 (直通) 03-5253-1645 (FAX)
矢島 (内線 43-325)、菊池 (内線 43-323)

共同水路測量調査事業及び署名式の概要

- マラッカ・シンガポール海峡は、アジアと欧州・中東をつなぐ重要な海上輸送路であり、我が国輸入原油の8割が通航する国際海峡です。狭い海峡を多数の船舶が通航する難所であることから、我が国による水路測量・航路標識整備等の協力により分離通航帯が設けられ、船舶の安全な航行に貢献しています。
- 同海峡の海図は、1996年～1998年にJICA（国際協力機構）と沿岸3カ国（インドネシア、マレーシア、シンガポール）との共同水路測量により作成されたものですが、既に約20年近く経過しており、複雑な潮流による海底地形の変化で浅瀬等の危険箇所が現れています。
- そこで、2014年に沿岸3カ国（インドネシア、マレーシア、シンガポール）は我が国の協力を得て同海峡の水路測量調査事業を実施することを決めました。まずは、浅瀬等があり、緊急に測量を行う必要がある5海域について日本の民間団体からの資金・技術協力及び沿岸国の自己財源・現物提供により先行実施しました（フェーズ1、2015～2016年）。
- フェーズ2（2017～2020年）では、フェーズ1以外の海域で30m以浅の海域（全分離通行帯の約1/3に相当）について「日・ASEAN統合基金」（JAIF: Japan-ASEAN Integration Fund※）を活用して沿岸3カ国と日本が共同実施します。日本側は、公益財団法人マラッカ海峡協議会が実施機関として事業の進捗・資金管理を行うとともに、日本の民間事業者が測量を行います。
- ※JAIF: ASEANの統合を支援するため、2005年の日・ASEAN首脳会議において小泉首相（当時）が表明し、2006年に設立した基金。2013年に安倍首相が総額1億ドルの「JAIF2.0」を追加拠出する旨を表明した。「JAIF2.0」は、（ア）海洋協力、（イ）防災協力、（ウ）テロ・サイバー対策、（エ）ASEAN連結性強化の4つを柱としている。
- 10月2日、沿岸3カ国と我が国（公益財団法人 マラッカ海峡協議会）の間で、調査の実施方針等を定めた合意文書の署名が行われました。署名式では、我が国としてマラッカ・シンガポール海峡における航行安全のために沿岸国との緊密な協力を継続する意思を国土交通省から表明しました。
- 過去の測量で用いたシングルビームに代わりマルチビーム方式（下図参照）を用いることにより精度を向上させた大規模な共同水路測量調査を実施することにより、同海峡の電子海図が更新され、同海峡を通航する船舶の安全が一層確保されることになり、中東からの原油輸入、欧州等との海上貿易の安定に貢献することになります。

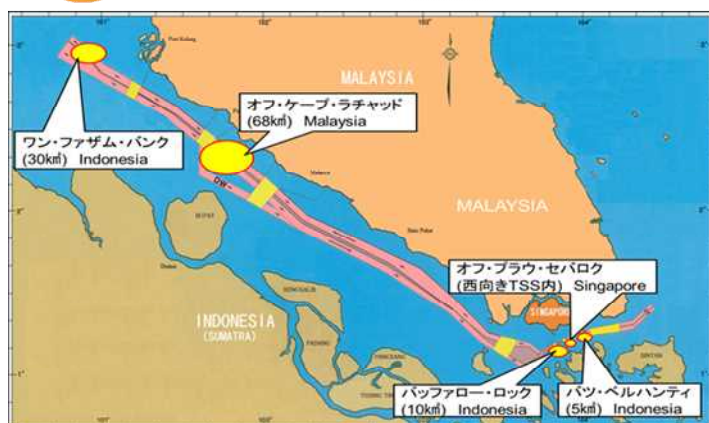
水路測量対象海域

○ フェーズ1

緊急に水路測量を行う必要がある5海域

○ フェーズ2

左記5海域以外の水深30m以浅海域



マルチビーム方式による水路測量イメージ

